

日本から中国への渡航について【最新情報 2020年9月25日現在】

1. 日本国外務省【感染症危険レベル】

中国では新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いて、9月から学校や会社は平常に戻り、国内の観光地も多くの人々が賑わっております。しかし、日本の外務省は依然として、中国全土に「レベル3（渡航を中止勧告）」を出しております。

2. 日中間の航空機運航状況（成田空港発着）

全日空が成田から上海へ週1便、日本航空が成田から大連へ週3便、中国国際航空が成田から上海と杭州へ各週1便、中国東方航空が成田から上海と西安に各週1便運航、中国南方航空が瀋陽と広州に各1便、厦門航空が成田から福州に週1便をしており、現在も減便の状況が続いております。その一方で、ビジネスで中国の会社へ戻る人、在日中国人が帰国する数も増える傾向にあり、航空運賃の高値が続いているばかりでなく予約が取りづらい状態になっているのが現状です。

3. 飛行機に搭乗する際の新たな義務付け（9月25日から実施）

日本から中国に渡航する場合、搭乗前3日以内（発行日を基準とする）の新型コロナウイルス「PCR検査陰性証明」が搭乗手続の際に求められことになりました。この検査証明は、駐日本中国大使館が指定した医療機関で発行されたものしか認められません。

（注意）このPCR検査陰性証明は、あくまでも飛行機に搭乗する際の条件であって、いままで現地に到着後行われていた14日間の集中観察が免除になるものではありません。現在も中国と日本では海外からの入国者に対して、一定期間の自宅観察または集中観察が行われております。

4. 今後の見通しについて（個人的な見方です）

これから冬にかけて新型コロナウイルスの感染と併せてインフルエンザの流行も懸念されており、収束はいつになるかの予測が立ちにくい状況です。但し、世界的に経済を優先に渡航制限を緩和する動きが少しずつ出ており、時間の経過と共にこの範囲が観光客の受入れにつながる時期が近いうちにあるのではないかと考えております。

- ・マレーシア、カンボジア、台湾など5つの国と地域との間で入国制限措置を緩和、駐在員など長期滞在者を対象に往来が再開（9月8日）
- ・日本とシンガポール間で出張などの短期滞在の往来も緩和、14日間の自宅隔離を免除することでも合意（9月18日）

◎日本政府は、韓国をはじめその他の国々とも渡航緩和について協議を行っています。